

中心児報

発行日：2024（令和6）年9月20日
発行：社会福祉法人 中心会
児童養護施設 中心子どもの家
相模原市中央区田名10125
TEL：042-764-7046
URL <http://kodomo.chusinkai.net/>
E-mail kodomonoiie@chusinkai.jp
発行責任：所長 丹 清



「真心に育つ」 創設者 常岡一郎 揮毫

「心が洗われた」と思うこと

所長 丹 清

施設の暮らしは、いつも皆が楽しく、いつも皆が和やかというわけではありません。しかし、そんな暮らしの中だからこそ、「心が洗われた」と感じさせてもらうこともたくさんあります。

下の手記は、一時期はプライベート環境の変化により退職を考えたけれど、続けて従事してくれている職員さんの手記です。私はとても心が洗われましたので、この機会に多くの皆様にも紹介したくなりました。

子どもの持つ力を信じて支え、たくさん悩み、葛藤しながら、
子どもと職員がともに成長していく

普段は明るく活発に過ごしている子どもたちだが、心の奥底では様々な感情を抱えていて、それが時折爆発して表に出てくる時がある。その表出の仕方に、私たち職員は苦しい思いをすることもあるが、これまでの子どもの歩みや背景を理解しながら、どのように子どもと関わったら良いか常に悩み、考えている。目で見てわかる成果は少ないが、子どもの成長を一番近くで見ることができる。子どもが嬉しいと思うことを一緒に喜び、悲しいと思うことは一緒に悲しみ、子どもがまた前を向き、自分の課題と向き合えるよう支える。簡単なことではないが、子どもの前向きな姿やその子らしくがんばる姿に私はいつも力をもらっている。

CVN 総会・研修会

中心子どもの家には、CVN（中心子どもの家・ボランティア・ネットワーク）があります。中心子どもの家で活動されているボランティアさん同士の研鑽や交流を目的とした組織です。学生ボランティア団体の方が役員となり、活動を進めていきます。コロナ禍で活動が中断していましたが、ボランティア活動の受入再開に伴い、CVNの活動も数年振りに本格的に再開という流れになりました。

6月15日（土）には、CVN 総会・研修会を開きました。コロナ禍後、初めての研修会だったため職員側が中心となって企画した総会・研修会でしたが、個人・団体、学生・社会人問わず、様々な方が参加してくださいました。それぞれがどのような思いで活動して下さっているかなど、施設職員とボランティアさんで共有ができる場となり、良い時間になったと感じています。



生活の様子

動物大好き！

6月のある日、市内公園の動物広場からポニーが来てくれました。毎年子どもたちが楽しみにしている行事です。数年続けて来て下さっているの、子どもたちはポニーの名前を覚えていて、スタッフの方に「〇〇って名前だね」などと聞いている様子もありました。



夕食ファミリーデー

中心子どもの家では月に数回、ユニットで調理をする日があります。夕食ファミリーデーは、各ユニットでユニットの職員さんと子どもたちで料理を作る日です。7月のメニューは「手作り餃子」でした。子どもたちもいっぱいお手伝いをしていて、全てのユニットがとても上手に餃子を作っていました。

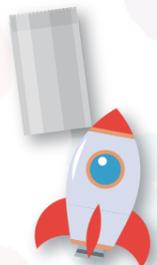


焼いている時は黙々と焼く様子も。焼き目にとってもこだわっていて一時も離れません。他にも「いいにおい」「はやくたべたい！」と言っている子がいたり、焼き目がつく様子をじ〜っと見ている子がいたり、それぞれ興味を持って参加している様子がありました。このように料理の工程の一つ一つを見ても、色々な反応があります。

普段は調理室で作っているの、子どもたちが料理工程を見ることができなかつたり、自分たちでやってみたりする機会がなかなか作れません。そのため、このような日は子どもたちが楽しそうに料理に関わってくれる貴重な日だと思っています。

★絆プロジェクト

昨年に引き続き、全3回の理科実験教室がスタートした夏。8月に行われた第2回はロケット制作。昨年度はスポイトロケットでしたが、今年度はフィルムケースロケットを作りました。ロケットの形も、飛ばすための方法も異なるロケット。「空を飛ぶ」という一つのことでも、様々な方法を考えることができると実験を通して感じたような気がします。そうした試行錯誤が今日の技術に繋がっているのだなと改めて思いました。



☀️ ディズニー外出

例年、秋ごろを予定している園全体での外出行事ですが、今年度は夏の終わりに行ってきました。今年度は満を持してのディズニーランド！ 天気に恵まれ…恵まれすぎて暑いくらいでしたが、この日を楽しみにしていた子どもたち。乗りたい物、行きたい場所などでグループを組みながら、思い思いに1日を満喫してきました。



手洗いの場面でたまたまハンドソープがこんな形に。「ここにもミッキーがいる！」と楽しそうに話す姿がありました。

🥣 夏のお菓子づくり

今回はクッキーづくりでした。チョコ味がメインでしたが、苦手な子のためにナッツ味も用意。里親さんが準備をしてユニットに上がると、待ちわびていたという様子で子どもたちが集まってきました。

それぞれ里親さんとやりとりをしながら、楽しく作ることができました。



ご案内

～相模原市里親養育包括支援センター『ふうせんかずら』より～

～募集しています～

相模原市短期里親

(さがみフレンドホーム)



<さがみフレンドホームとは>

* 児童養護施設などで暮らしている子どもに、週末や祝祭日・夏休み・冬休み・春休みなど幼稚園や学校が休みにの時に日帰りまたは数日間にわたって、家庭生活を経験してもらうことを目的として活動する里親さんです。

* 同じ子どもと何年にも渡って交流します。交流の詳細は子ども施設・里親さん・児相で相談して決めていきます。子どもの親代わりではなく、親戚のおじさんおばさんのようなイメージです。子どもの心の支えとなり、関係者と共に成長を見守る存在です。

相模原市里親養育包括支援センター



相模原市

さがみフレンドホーム交流を希望する子どもが増えています。

「週末だけなら…」 「おじさん・おばさんの関係なら…」 と考える方を募集しています！

交流児童は現在約30名 複数のお子さんと交流する里親さんも数組いらっしゃいます。

この活動を行う
里親が足りません

A里親さん

いつも特別に何かしていません。子どもの好きなお昼ご飯を食べて、その後は、ゴロゴロしてテレビや好きな映画を見て過ごしてもらっています。

里親より
こんなことをしています



B里親さん

交流のコースは、まず食べたい昼食を決め食べに行き、とにかくその子のやりたいことに付き合います。自分達も楽しみながら活動しています。

自分に誰も来てくれない時、来てくれた人。大事な人なんだよね。

交流児童 C君



子どもより
こんなふうに思っています



初めて泊りに行き、寝る時おばちゃんは横にいて一緒に寝てくれた。布団が暖かくて、家ってこういうのだと知った。私が望むのはこれからも里親さんと私が普通にいられる関係です。
元交流児童 D君

お問い合わせ・ご連絡先

☆相模原市里親養育包括支援センター ふうせんかずら

〒252-0231

相模原市中央区相模原5-1-20 南栄ビル402

TEL: 042-704-8433

FAX: 042-704-8434



ご寄附お礼

[2024年4月～6月]

熊谷 敏博 様 ・ 伊達 直子 様 ・ 増山 敬太 様 ・ 山岸 敏子 様 ・ 深津 重光 様 ・ 小川 昌子 様 ・ 橋本 茂美 様
鈴木 豊 様 ・ 井上 由之 様 ・ 会田 吉美 様 ・ 栗原 貴男 様 ・ WFWP さがみはら 金澤 静子 様
スコア・コンサルタント有限会社 代表取締役 鈴木 克司 様 ・ 株式会社 三光工芸社 代表取締役 貝塚 豊 様
相模原中央地区更生保護女性会 様 ・ 株式会社 地球ファミリー 様 ・ マルハン橋本台店 様 ・ いなば食品株式会社 様
NPO 法人デジタルコンテンツ研究会 様 ・ ニラク海老名本郷店 様
㈱ザ・シティ相模大野店 様 ・ 関東アイスクリーム協会 様
NPO 法人ふれあい自然塾 様

熱いご支援

ありがとう

ございます

